



2014年9月20日

玉川大學教育博物館



目次

展覧会への招待……………2
 新館長より……………3
 報告・
 資料をご寄贈いただきました…4
 学内連携の教育活動……………5
 開館カレンダー・
 利用案内……………6

慰めの聖母マリヤ

ロシア・イコン 板にテンペラ

30.9 × 26.2cm 1800年頃

聖母マリヤは顔を軽く左に傾け、左手を頬にあてて、深い思いを浮かべた表情をしています。幼児キリストは母マリヤに寄り添い、両手で開かれた巻物をもっています。そこには、「正しい審判が下る時、恩寵と慈悲がもたらされる」と記されています。このタイプのイコンは、17世紀以降に聖母敬拝像として制作されたものです。

展覧会への招待 玉川学園創立 85 周年記念特別展

東と西のキリスト教美術—イコン・西欧絵画コレクションから

イコンと西欧の宗教画は、両方とも初期キリスト教美術を源泉として発展してきました。初期キリスト教美術は、キリスト教の誕生から5世紀後半にかけてローマ、エジプト、シリア、小アジアなど、地中海沿岸と周辺の内陸部で生み出された美術をいいます。

西欧における中世は、西ローマ帝国の滅亡とともに始まり、美術的には初期キリスト教美術から初期中世美術につながります。同時代的にみると、東ローマ帝国では初期キリスト教美術からビザンティン美術へと移行していきます。

西欧では宗教的な中世美術の時代を経て、聖書や宗教的な逸話をモチーフにした宗教画が多くの画家によって描かれました。15世紀からは顔料を油で練り合わせた絵具を用いる油彩画の技法や写実的な表現が主流となり、より人間的なキリストや聖母、聖人が描かれるようになりました。

東方では、イコンがビザンティン美術の流れの中で盛行しました。8世紀のイコノクラスム（聖像破壊）はイコン制作を停滞させましたが、11世紀頃からのイコン敬拝の高まりとともに、板にテンペラ技法を用いたイコンがロシアやそのほかの東方正教会圏に広まってきました。

この展覧会は会期を前期後期の2期に分けて展示をいたします。前期はキリストの生涯を中心にしたイコンの構成に西欧絵画を織り交ぜて配置し、後期は聖母子像、キリスト像、聖人像などのイコンと西欧絵画の組み合わせで展示を構成いたします。両会期の展示の構成は異なりますが、いずれもイコンと西欧絵画を比較することで、美と特性をより深く理解できる展示空間になる予定です。前後期ともご来館いただければ幸いに存じます。



キリストの洗礼
ギリシア・イコン 板にテンペラ
41.4 × 27.3cm 18世紀



最後の晩餐 作者不詳 板に油彩
45.0 × 75.0cm 17世紀

- ◆会期 前期 2014年11月3日～12月7日
後期 2014年12月13日～2015年1月25日
- ◆休館日 前期 2014年11月11日(火)～13日(木)、15日(土)、16日(日)、29日(土)、30日(日)
後期 2014年12月20日(土)～2015年1月4日(日)、12日(月)、17日(土)、18日(日)
- ◆時間 9:00～17:00(入館は16:30まで) ◆入館料 無料
- ◆会場 玉川大学教育博物館 第2展示室
- ◆講演会 2014年11月27日(木) 13:30～15:00(予約不要、13:20までに教育博物館受付にお越し下さい)
「イコンと西欧絵画」講師 西山重徳氏(美術史家)
- ◆ギャラリートーク 学芸員が会場で展覧会の見どころを解説いたします
前期 2014年11月17日(月)、11月25日(火)、12月3日(水)
後期 2014年12月15日(月)、2015年1月8日(木)、1月22日(木)
各回とも11:00～12:00(予約不要) 各期3回とも内容は同一です

新館長より

就任のごあいさつ

教育博物館長 大西珠枝

本年1月に教育博物館の館長に就任いたしました。私は、これまで国や地方の行政の立場で、社会教育や文化財保護の観点から博物館を見てきました。その経験と折々に感じたり考えてきたことを活かして、教育博物館の発展に力を尽くしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

最近、大学が設置する博物館が増えてきました。その設立の経緯は様々ですが、大学の学術研究により収集したり、研究活動によって生み出された有形の学術資料を整理、保存し、公開・展示する、いわゆるユニバーシティ・ミュージアムの性格を持つものが多いようです。

玉川大学教育博物館は、大学博物館となつてはいますが、創立者小原國芳の「私塾こそ理想」という思いや全人教育の理念を受けて、近世近代の我が国の教育資料を収集すると同時に、「本物を見よ」という小原國芳の言葉に沿って、学園が設置している幼稚部から大学院までの幼児児童生徒学生の教育に役立つ芸術資料などを収集しています。これらの資料を実際に学園内の教育機関の教育に活用していることから、むしろ玉川学園の博物館としての性格を持ち、二重の意味で「教育」博物館としての特徴を持っています。

生涯学習社会の中での博物館への期待が大きくなっており、学校教育を受けている子どもたちから地域の大人の人々までを対象として、博物館の教育機能を強化しようとする活動も盛んになってきています。教育博物館は学園内の教育機関との連携の実績はあるものの、大学のキャンパス内一番奥に所在しているという立地もあり、地域との連携が必ずしも十分ではないのが現状です。これまでの教育博物館の機能の充実に加え、「社会に開かれた大学」の窓口として人々の多様な学習ニーズにこたえる活動を検討していきたいと思っています。

折しも、今年が玉川学園創立85周年を迎えます。今年度はこれを記念してアイコンコレクションを中心に西欧絵画を組み合わせた特別展「東と西のキリスト教美術—アイコン・西欧絵画コレクションから」を開催します。アイコンと西欧絵画を対比して見ることで、技法などの違いを知ると同時に、描き方は異なっても、絵に込められたキリストや聖母、聖人への深い憧憬に変わりはないことを感じて、聖なる世界に出会っていただきたいという思いを込めた展覧会です。皆様のご来館をお待ちしています。

報 告

カサド・原智恵子資料整理・調査委員会

「ガスパール・カサド及び原智恵子関係資料整理・調査プロジェクト」が、2012年度から始動しています。これに対し、学外の研究者からご指導いただく委員会を、3月24日に開催しました。席上出された意見をもとに、当館所蔵のスペイン人チェリスト及び日本人ピアニスト夫妻の関連データ集の刊行準備を進めています。



博物館実習

通学課程「博物館実習（館務実習）」 46名

2014年8月4日～9月11日

4班各4日間

通信教育部「夏期スクーリングⅡ期」 28名

2014年8月10日～16日

資料の貸し出し

・うらわ美術館(埼玉)「サッカー展、イメージのゆくえ。」(4/26～6/22)

坪井玄道他編『戸外遊戯法』等 3点

・東京新聞文化事業部「ジャン・フォートリエ展」(下記の3館に巡回)

フォートリエ作「植物」 1点

東京ステーションギャラリー

(東京 5/24～7/13)

豊田市美術館(愛知 7/20～9/15)

国立国際美術館(大阪 9/27～12/7)

・徳川美術館(愛知)「復古やまと絵 新たな王朝美の世界—訥言・一蕙・為恭・清一」(10/4～11/9)

田中訥言作「朱文公像」 1点

人の動き

2014年4月1日付で館長大西珠枝の教授職の所属が、当館から芸術学部へ配置換えになりました。館長職は継続します。

同日付で事務担当の課長遊佐肇が健康院(診療所)に転出し、後任に総務部から松田幸秀が転入しました。

統計(2013年10月～2014年3月)

本館

開館日数 106日 入館者数 1184名

収集

〔資料〕 日本教育史 131件

芸術 1件

〔図書〕 和書301冊 洋書5冊

〔定期刊行物〕 和雑誌 32冊

洋雑誌 19冊

分室

利用者 0名 資料提供 0件

収 集 玉川学園関係 36件

資料をご寄贈いただきました(順不同・敬称略 2014年2月～7月)

首藤 元男 同窓会報 1点

島津 幸正 教育史関係資料 1点

安岡 昭男 教育史関係資料 1点

戸井 良治 教育史関係資料 1点

羽鳥 直之 教育史関係資料 1点

藤沢 俊雄 同窓会報 1点

遊佐 肇 ジョン・グールド関連資料 11点

島津 幸生 教育史関係資料 1点

杉山 武敏 教育史関係資料 3点

二階堂 博 同窓会報 2点

黒萩 泰弘 同窓会報 2点

国立台湾図書館 教育史関係資料 1点

児玉 孝男 同窓会報 1点

ありがとうございました

学内連携の教育活動 大学生への教育活動

・「美術科指導法」との連携

4月30日に本学芸術学部の学生12名が当館を訪れ、美術教科書を使った教育活動を行いました。この活動は芸術学部の教職関連科目「美術科指導法Ⅰ」の授業の一環として行われたもので、実物の教科書を観察しながら図画工作や美術の歴史を学ぶことを目的としています。履修生は明治時代から太平洋戦争期にかけての様々な教科書をじっくり閲覧した後に、発見したことをホワイトボードに次々に書き込みます。その後、指導教員の指示のもと、履修生たちは自分たちの記述をもとに、日本の美術教育がどのような変遷を経たかディスカッションを行いました。ディスカッションでは昔の図画工作の教科書は「男生用」と「女生用」に分かれた時期があったことや太平洋戦争期に使用された教科書では工作が重視されていたことなどが話し合われました。



美術教科書の閲覧

・大学初年次生への教育

本学では一年次生全員が履修する「一年次セミナー101・102」が開講されておりますが、その一環として教育博物館の見学があります。博物館見学の直接の目的は「大学の教育リソース活用する方法を学ぶ」ことにあります。博物館には日本教育史関係資料や美術関係資料、創立者小原國芳や玉川学園の教育に関する展示があります。一年次生はこうした展示を見学することにより、大学生としての教養や自校史理解を深めていきます。



ワークシートを用いた活動

「一年次セミナー101・102」の科目としての学習到達目標は共通しておりますが、具体的な指導は学部の教員に任されており、学部の専門性などを考慮した指導が行われています。教員から事前に配布されたワークシート課題を自力でこなすことを求める学部もあれば、自分の気に入った作品を選んで、その根拠を論理的に説明してレポートにまとめるように指示する学部もあります。観光学部では「教育博物館を観光パンフレットに掲載すると仮定してレポートを書いてみよう」という課題を出しているクラスもあります。工学部では気に入った展示資料のスケッチを描くように指示を出している教員もいました。担任教員に引率されたクラスごとの見学もあります。このような場合、冒頭に博物館所属の教員が当館の沿革や展示資料の概要、見学にあたる諸注意などを行います。一年次生はこうした活動を通して、学内リソースの一つである博物館の存在を学びます。

(宇野慶)

2014年度下半期 開館カレンダー

2014年 10月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

11月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

12月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2015年 1月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2月

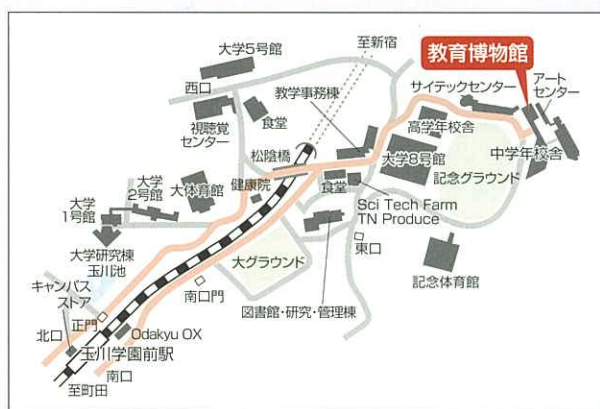
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

3月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

- 11月3日(月)～12月7日(金) 特別展 東と西のキリスト教美術(前期)
- 12月13日(月)～1月25日(金) 同(後期)
- 休館日
- 第1展示室(日本教育史常設展示)のみ公開

※ この予定は、大学授業・行事日程、電力事情等により変更することがあります。
 詳細は当館ホームページをご覧ください。電話等にてお問い合わせください。



利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 日曜日・土曜日・祝休日・玉川大学の定める休日・展示替期間
(日曜日・土曜日及び祝休日に大学の通常授業や学校行事が行われる場合、当館も臨時に開館することがあります。詳細はお問い合わせください。)
- 入館料 無料

交通手段

小田急線「玉川学園前」駅下車 徒歩15分
 駅南口を出て、線路沿いの道を新宿方向に進むと、玉川学園の校門(南口)に行き当たります。博物館の建物の位置は、校門の案内所でお尋ね下さい。
 (来館者用駐車場はありません。また校内での園児・児童・生徒・学生の安全のため、お車での来館はご遠慮下さい。)

博物館ニュース SHŪ No.43
 2014年9月20日
 編集・発行 玉川大学教育博物館
 〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1
 TEL 042-739-8656 FAX 042-739-8654
www.tamagawa.jp/campus/museum/

『SHŪ』とは『集』、さまざまな「集められたもの」をめぐり、多くの人々の「集いの場」になることを目指して名づけたものです。